

Weekly コラム

平成 29 年 11 月 28 日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4 号館 4 階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会) Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

極・医療

がんは 1981 年以降 35 年もの間、日本人の死因第 1 位を占めています。国立がん研究センターの発表によりますと、2017 年に新たにがんと診断された人は 101 万 4000 人、がんで死亡する人は 37 万 8000 人とのことです。それぞれが過去最多で、高齢化を背景に今後もがん患者は増加する見通しとなっています。そしてその医療費には約 4 兆円が充てられており、この膨大な死亡者数と医療費を削減するには、早期発見・早期治療が第一となります。ところが日本のがん検診の受診率は全体でも 3 割程度で、この受診率は他の先進国と比較しても低いです。低受診率の理由としては「面倒である(医療機関に行く必要がある)」「費用が高い」「診断まで時間がかかる」「がん種ごとに異なる検査を受ける必要がある」などが挙げられます。

今、こうした状況に変革が起ころうとしています。検査するものは尿。使うのは「線虫」という体長 1 ミリほどの生き物です。1 滴垂らした尿の匂いに線虫が好んで寄って来れば「がんの疑いあり」、嫌って遠ざかって行けば「がんの心配なし」となります。端的ではありますが、その精度は 95.8% と驚きの高さです。装置を使った診断とは違い、線虫を使ったこの方法は数百円と安価で検査ができ、ステージ 0~4 まであるがん進行度のうち、ステージ 0 や 1 といった早期がんも発見できるということです。今のところどんな部位のがんかは診断できていませんが、「がんの有無」を発見してくれ、すい臓がんのように発見が困難ながんも見逃さないということです。したがって、「がん有り」となった人

だけが従来の部位別検診を受ければ良いということです。

2019 年末から 2020 年のはじめには実用化されることで、この新たな検診法は、がん診療のあり方を根本的に変え、誰もが気軽にがん診断を受けられるようになります。そうなれば、がんの早期発見・早期治療につながり、治る確率も高くなり、医療費削減にも大きく貢献できそうです。

がんに限らず病気には特有の匂いがあると言われており、匂いを検知することで病気を早期に診断する技術開発が進んでいます。人間を除く動物のほとんどは嗅覚を鋭敏にすることを生存戦略として用いており、線虫以外の動物でも活用の可能性を感じます。また他の感覚では、人間より視覚の優れたハトを用いて乳がんを識別したとの報告もあります。医療の両輪である診断・治療のうち、iPS 細胞の発明により国産技術として細胞治療の道を切り開いた我が国としては、診療分野でも日本発の技術として生物診断を世界に広めていけることを期待したいです。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」「配信停止希望」と件名にご入力の上、

skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。